学生のアクティビティ

今号の「学生のActivity」は「お茶大生によるお茶大生紹介」！ たった3 つの学部なのによく知らない、隣の学科だけど何を勉強しているのか分からない、どんな授業をどんな人が受けているの？ そんなお茶大生の疑問を、お茶大生を通じて解決します！

生活科学部人間生活学科生活文化学講座３年

我喜屋 早織 GAKIYA SAORI

趣　　味：**裁縫とお菓子作り**
サ ー ク ル：**百人一首同好会**
好きな言葉：**「年を重ねただけで人は老いない 夢を失ったとき はじめて老いる」**
（Samuel Ullman作、新井満訳『青春とは』より）

―― 生活文化学講座に進んだ理由は？

中学生の頃に、ある本を読んで服飾史の勉強がしたいと思うようになりました。その本を書いた徳井淑子先生がたまたまお茶大にいらっしゃる方で。徳井先生のもとで学びたいと思い、お茶大を受験し、生活文化学講座に進みました。

―― 生活文化学講座では、どんな勉強をしている人がいるのでしょうか？

服に関心のある人が多い気がしますが、もちろんそれだけではないですね。人間の生活の文化について様々なアプローチから学べるのが生活文化学講座なので、生活文化に関わることなら色々なことが学べます。言ってしまえば何でもありですね。文化人類学に興味があって、文教育学部の授業も多数履修している学生もいます。幼児教育に興味を持っている学生もいますし、ダブルスクールで服飾を学んでいる先輩もいます。他にも学芸員や社会教育主事の資格取得を目指している学生も。この講座に決めた理由が、1年時の比較文化学の授業で鈴木先生が盆栽をやっていたのが一番記憶に残ったから、という方もいました。本当に十人十色という感じです。先生は4人と少ないですが、個性的な先生ばかりで、とてもユニークな講座です。

―― 授業がない時間など、自由な時間にはどんなことをしているのですか？

以前はよく図書館のソファーで寝ていたのですが（笑）、この夏はサークルで、大学連盟が運営する学生大会の競技委員長を、所属する百人一首同好会では30周年記念大会の会場チーフを任されていたので、大会準備などで忙しかったです。ちなみに30周年大会のマスコットキャラクターの「こまちちゃん」は私がデザインしました。ちょっと自慢です。

普段は、裁縫やお菓子作りが好きなので、小物を作ったり人形や洋服を作ったりしています。自分の服を作ることもあります。お菓子作りはストレス発散ですね。なぜか作るとスッキリするんです。

―― 最後に受験生へメッセージはありますか？

大学は本当に楽しいところです。自分次第でいくらでも見聞が広げられるし、その環境が整っている場所だと思います。学生のうちの特典もいっぱいあって。たとえば、社会人になったらお金を払わなきゃ聞けないような講演会も無料で聞けたりします。こんなに時間がいっぱいあるのも本当に今のうちだけ、とよく先輩方に言われますが、その通りだと思います。休みが長いので長期の旅行にも気軽に行けます。なので、結論としては色々な所に行って、学んで、思いっきり楽しみましょう！ ということですね。そして少しでも興味があればぜひ生活文化学講座へいらしてくださいね。お待ちしております。

学科の人に聞いてみました！ 我喜屋さんはどんな人？

喜ばせ上手な人です。自分の周囲の人は何に喜ぶのか、どんな人なのかをしっかりと見ていて、随分昔に話しささいなことでも、彼女はしっかりと記憶してくれています。更に、唐突に手作りのお菓子をプレゼントしてくれることもあり、良い意味で驚かされています。また、小さな日常の疑問に詳しい物知りさんでもあり、いつも新鮮な話題を提供してくれて、一緒にいて飽きない人です。（生活文化学講座Kさん）

一言でいうと頑張り屋さんだと思います。落ち着いてしっかりしているようにみえるけど、方向音痴気味でよく道に迷っていたり、誰かのために夜中にケーキを作っていたり。根をつめるタイプの頑張り屋さんで、たまに寝不足で現れて心配になるので、自分の身体にもっと気をつかってほしいです。あと、メイクやお洋服の知識が物凄いので、何かと相談に乗ってもらっています！ クマ隠しのお化粧テクニックなんかも教えてもらいました。（発達臨床心理学講座Kさん）

ピックアップアクティビティ

授業 ー「服飾美学各論」

我喜屋さんも履修している、金曜5･6時限の服飾美学各論の授業を取材しました。担当されている生活文化学講座の難波知子先生に、この授業について聞いてみました。

── 服飾美学各論はどんな授業ですか？

この授業では、明治以降に学校制服がどのように成立・普及してきたのか、具体的な事例を紹介しながら、時代背景と制服との関わりや制服をめぐって形成される文化について考えています。その中で、今年は「明治の女学生を体験する」という実習を試みました。

── どんな実習ですか？

明治の女学生たちの制服である「袴」を穿いて、歩いたり走ったり、階段を上り下りしたり、自転車に乗ったり、ラジオ体操やバスケットボールなどの運動をしてもらったりして、着物や洋服との違いを感じてもらう実習です。

「だるまさんがころんだ」

袴を穿くようになって、当時の女学生たちはより活発に運動できたと言われていますが、実際はどうだったのか検証してみたいと思って始めました。洋服の生活に慣れた私たちの身体が、袴や着物にどのような不自由さを感じるのか、学生のみなさんに考えてもらいたいと思っています。

また、この授業を履修する学生にも、授業について聞いてみました。

── この授業についてどう思いますか？

和服（袴ならびに着物）を身につけて様々な動きを体験することによって身をもって和服の特性を学ぶことができました。また、先生のご指導のもと、なかなか習う機会のない着付けを勉強することができたことも大変ためになったと思います。（Uさん）

私は袴で自転車に乗ったのですが、長く広い裾でも意外と乗りやすく、驚きました。明治や大正時代にタイムスリップしたようで、当時の女学生の気分を味わうことができました。（Nさん）

袴でも結構動けます

バスケットボール

マスコットキャラクター

サークル ー 百人一首同好会

我喜屋さんが所属する百人一首同好会について、取材をさせていただきました。ここで行われているのは「競技かるた」。「畳の上の格闘技」と形容される競技かるたは、手に汗握る静かで激しい真剣勝負。優雅なイメージとは裏腹に、試合が始まると緊迫した空気が張り詰める…そんな競技かるたサークルが百人一首同好会です。

── 活動内容と、活動日を教えてください。

競技かるたの練習は、月・火・木・金・土の週5回、お茶大・東京大学の施設や文京区内の施設を利用して行っています。

── どのくらいの規模で活動しているのですか？

お茶大や東京大学の学生が中心のインカレ同好会で、現役の学生は50名ほど所属しています。大学を卒業してからも会員でいることは可能で、会費を払って活動に参加している人は150人ほどいます。練習日がたくさんあることと、練習時間が夜であることもあってか、社会人の方にも参加してもらっています。

お茶大和室での練習風景

── 競技かるたの魅力はどんなところですか？

老若男女問わず、平等に戦えるところです。幅広い世代の人が関わっている競技なので、様々な人達と交流できるのも魅力かもしれませんね。

── 全くやったことない私でもできますか？

はい。7～8割は大学から始めているので大丈夫ですよ。大学の途中から入会する人もいるので問題ありません。百人一首同好会ではいつでも新入生を歓迎します。興味のある人は「東大かるた会」で検索してみてください。もちろん、経験者の方もwelcomeです！ お茶大生も多くの大会で活躍しており、2013年春の大会ではお茶大でチーム出場し、優勝しました。

取材をしたこの日は、卒業される方への色紙を現役生が書く特別な日。「ケーキ練」と呼ばれ、普段のかるたの緊迫感とは違い、にぎやかな空気の中、ケーキやお菓子をつつきながら皆で色紙を書いていました。この日のケーキは、なんと全て我喜屋さんの手作り！ 趣味の域を超えた力作揃いです。皆さん、競技のあとの甘いひと時を楽しんでいました。

ショートケーキにツリー型の抹茶ケーキ、どちらも美味しそう♪

お料理とお菓子作りが得意で、とても器用な人です。好きなことに一途で、好きなことの極めてるレベルが高い！ よくお手製の美味しいお料理やお菓子を振る舞ってくれます。私のお気に入りはヴィシソワーズです♪ ちなみに、所属する百人一首同好会の活動にも熱心で、競技かるたもA級です！ これすごいんです。そんな人です、早織ちゃんって。
（生活社会科学講座Tさん）

編集後記

いかがでしたか？ 初の企画で戸惑うことも多くありましたが、学生を通じて学内のことを知る良い機会になれば、と思います。（生活科学部3年　児玉千春）

取材を通して今まで知らなかったお茶大について知ることが出来て、良い経験になりました。（理学部2年　渡邊 晶子）

学生のアクティビティ